

2005年3月期
中間期決算説明会

2004年11月2日
ヤマハ株式会社

2005/3期 中間期決算の概要



2Qの状況

- 2Qは、前年同期及び前回(8/2)予想に対し、減収減益
- 営業利益は携帯電話メーカーの在庫調整により半導体が減収になったことに加え、リビング、レクリエーションの減収により、対前年大幅減益

中間期の状況

- 前年同期比増収(+ 0.9%)減益(営業利益▲8.4%)
 - ・楽器、AV・IT 増収増益
 - ・電子機器・金属 増収減益
 - ・リビング、レクリエーション 減収減益
- 減損会計の早期適用により、中間純損失61億円
- 中間期末在庫は、対前年同期29億円増加(対前回予想33億円増加)
楽器、AV在庫増が主因
- 中間期末の実質有利子負債は、232億円まで低下し、財務改善進む
(対前年同期▲235億円、対前回予想▲83億円)

2005/3期 中間期業績概要



▶ 対前年同期増収減益。前回(8/2)予想に対しては減収減益

(億円)

| | 04/3 (上期) 実績 | 05/3 (上期) 実績 | 前年 同期比 | 05/3 (上期) 前回予想 | 予想比 | (2Q) 実績 |
|-----------------|--------------------|--------------------|-----------|----------------------|-------|------------|
| 売上高 | 2,663 | 2,686 | +0.9% | 2,735 | ▲1.8% | 1,357 |
| 営業利益 (営業利益率) | 264 | 242 (8.9%) | ▲8.4% | 255 | ▲5.1% | 92 |
| 経常利益 (経常利益率) | 297 | 283 (10.6%) | ▲4.9% | 280 | +1.1% | 111 |
| 当期利益 (当期利益率) | 262 | ▲61 (▲2.0%) | - | ▲50 | - | 65 |
| 持分法損益 | 52 | 56 | | 42 | | 28 |

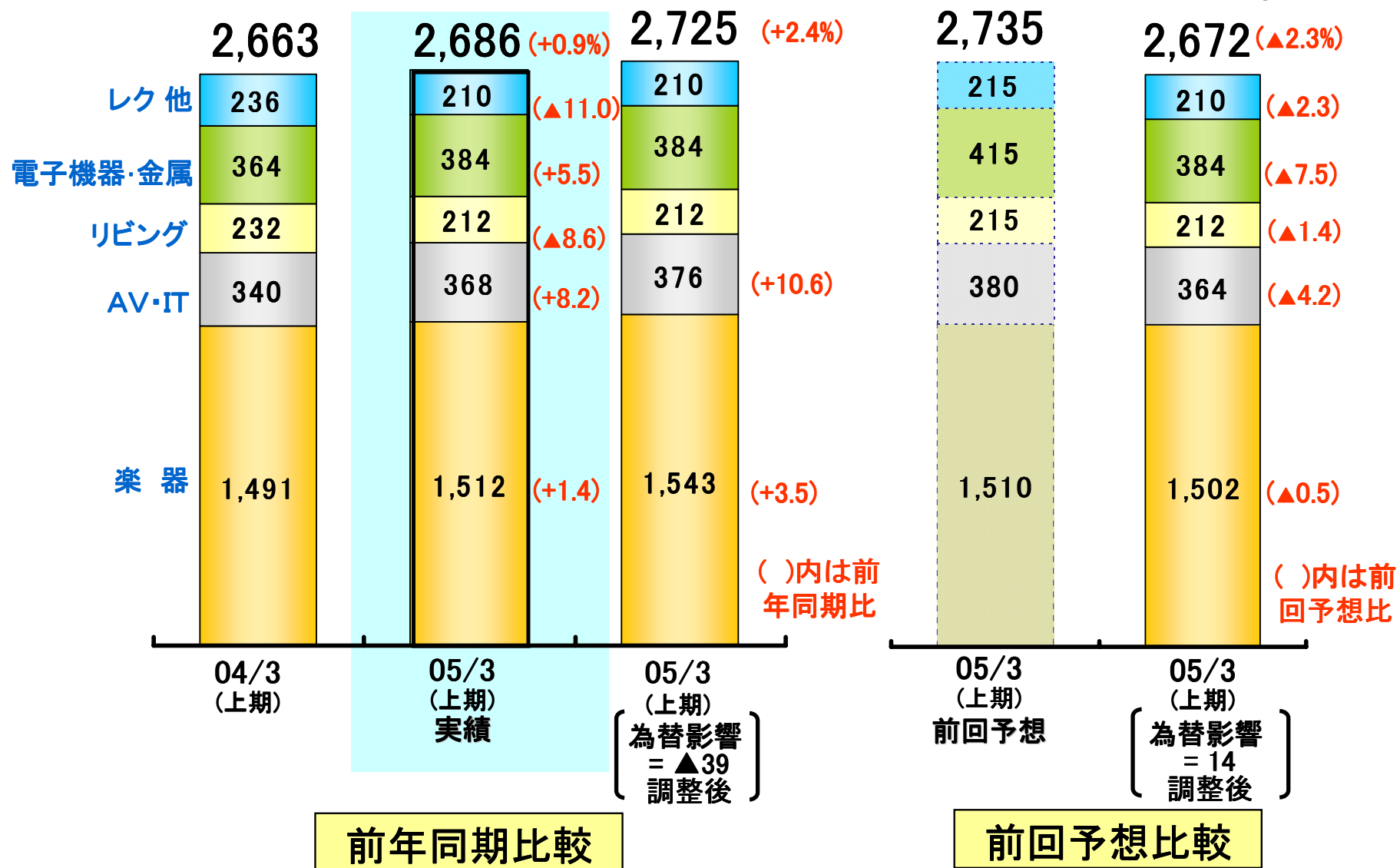
為替レート

| | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|
| 売上高 | US\$ | 118 | 110 | 110 |
| | EUR | 133 | 133 | 130 |
| 利益 | US\$ | 119 | 110 | 110 |
| | EUR | 128 | 132 | 130 |

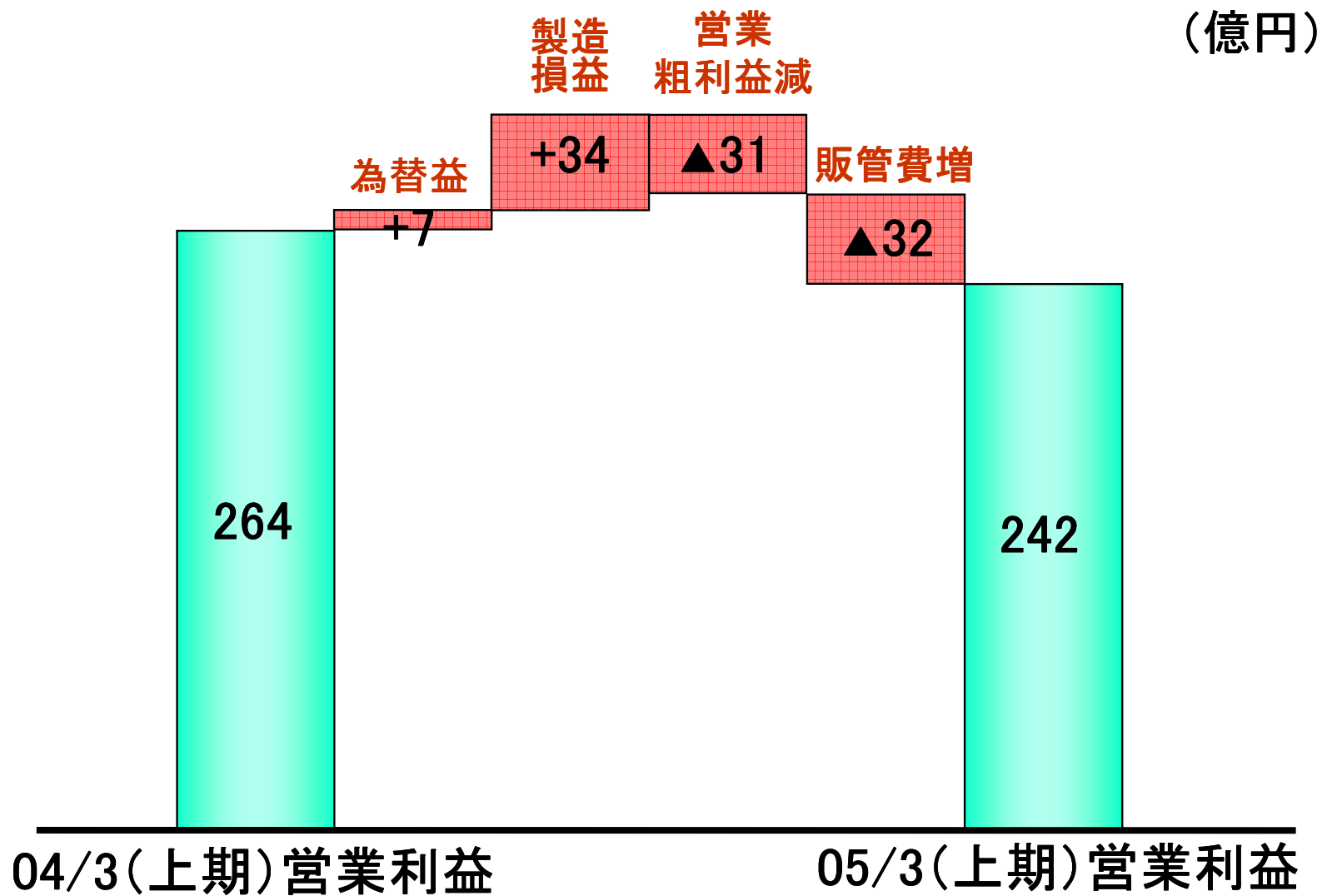
2005/3期 中間期事業別売上高



(億円)



2005/3期 中間期營業利益增減分析



2005/3期 中間期事業別営業利益



(億円)

| | 04/3 (上期) | 05/3 (上期) | +/ \blacktriangle | 為替 影響 | 実質 +/ \blacktriangle | 前回予想 (8/2発表) |
|-----------|--------------------|---------------------|---------------------|--------------------|---------------------------|---------------------|
| 楽 器 | 97 | 99 | + 2 | \blacktriangle 3 | + 5 | 110 |
| A V ・ I T | 14 | 24 | +10 | +10 | 0 | 25 |
| リ ビ ン グ | 11 | \blacktriangle 1 | \blacktriangle 12 | | \blacktriangle 12 | 0 |
| 電子機器・金属 | 142 | 132 | \blacktriangle 10 | | \blacktriangle 10 | 130 |
| レクリエーション | \blacktriangle 5 | \blacktriangle 12 | \blacktriangle 7 | | \blacktriangle 7 | \blacktriangle 10 |
| そ の 他 | 5 | \blacktriangle 1 | \blacktriangle 6 | | \blacktriangle 6 | 0 |
| 計 | 264 | 242 | \blacktriangle 22 | +7 | \blacktriangle 29 | 255 |

* 前回(8/2)予想との比較では、 \blacktriangle 13億円。内、2Qでの為替影響は+7億円。
 (楽器+5億円、AV・IT +2億円)
 従って、実質ベースでは前回予想に対し、20億円の減益

2005/3期 中間期営業外損益、特別損益 YAMAHA

| | 04/3(上期)実績 | 05/3(上期)実績 | 05/3(上期)前回予想 |
|--------------|------------|------------|--------------|
| | | | (億円) |
| 営業外損益 | | | |
| 持分法利益 | 52 | 56 | 42 |
| 金融収支 | ▲4 | 1 | 1 |
| その他 | ▲15 | ▲16 | ▲18 |
| 計 | +33 | +41 | +25 |
| 特別損益 | | | |
| 固定資産処分損益 | ▲5 | ▲4 | ▲2 |
| 減損損失 | | ▲325 | ▲325 |
| その他 | ▲5 | 3 | 2 |
| 計 | ▲10 | ▲326 | ▲325 |
| 法人税他 | | | |
| 法人税等 | 22 | 14 | 1 |
| 少数株主持分 | 3 | 4 | 4 |
| 計 | 25 | 18 | 5 |

2005/3期 通期業績予想



(億円)

| | 04/3実績 | | | 05/3予想 | | | 伸び率 |
|-----------------|--------|-------|---------------|--------|-------|---------------|--------|
| | 上 | 下 | 計 | 上 | 下 | 計 | |
| 売上高 | 2,663 | 2,732 | 5,395 | 2,686 | 2,779 | 5,465 | +1.3% |
| 営業利益 (営業利益率) | 264 | 187 | 451 (8.4%) | 242 | 138 | 380 (7.0%) | ▲15.7% |
| 経常利益 (経常利益率) | 297 | 213 | 510 (9.5%) | 283 | 142 | 425 (7.8%) | ▲16.7% |
| 当期利益 (当期利益率) | 262 | 173 | 435 (8.1%) | ▲61 | 256 | 195 (3.6%) | ▲55.2% |

持分法利益

52 52 104 56 37 93

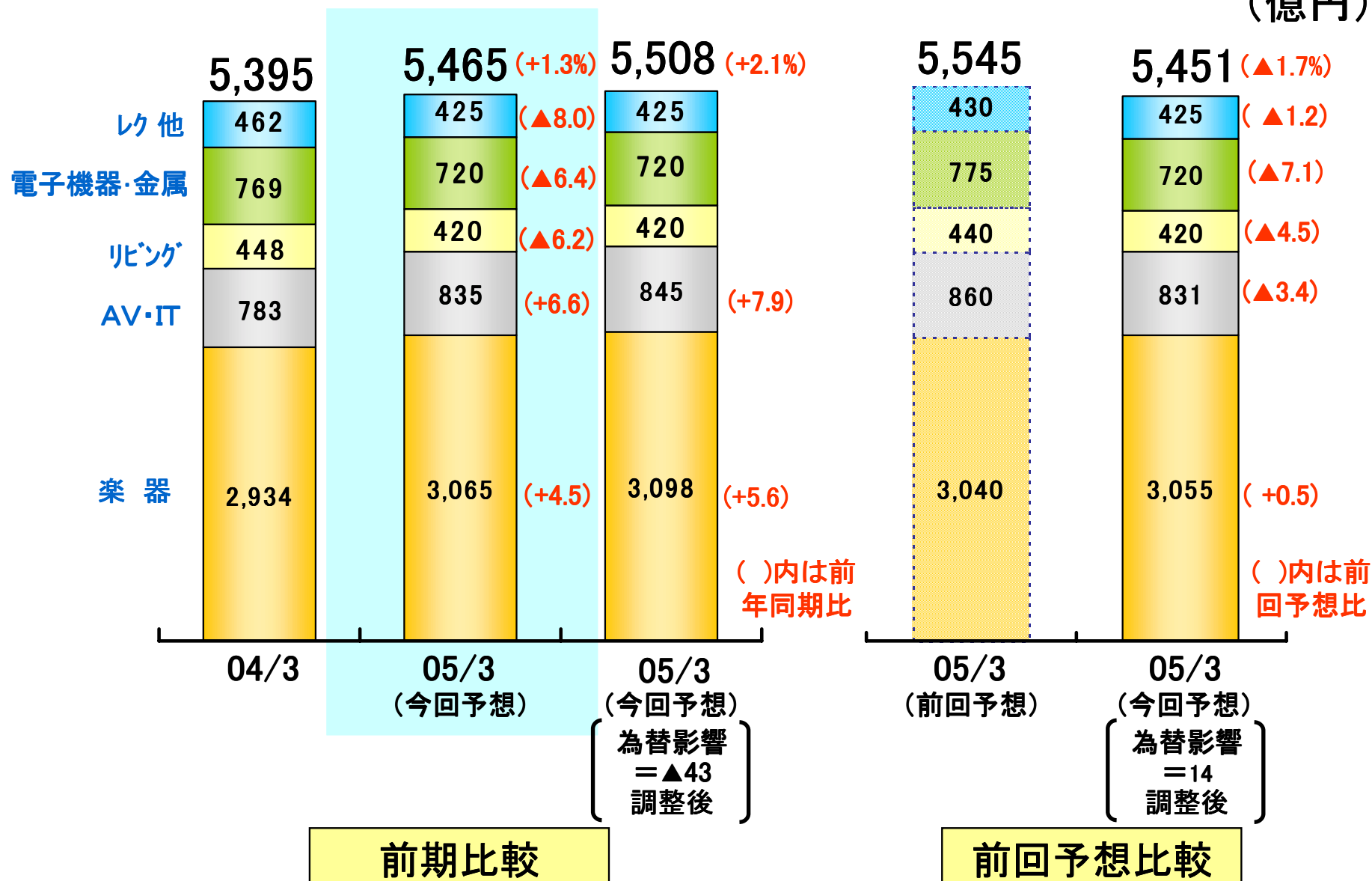
為替レート

| | | | | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 売上高 | US\$ | 118 | 108 | 113 | 110 | 110 | 110 |
| | EUR | 133 | 132 | 133 | 133 | 127 | 130 |
| 利益 | US\$ | 119 | 109 | 114 | 110 | 110 | 110 |
| | EUR | 128 | 130 | 129 | 132 | 127 | 129 |

2005/3期 通期事業別売上高予想



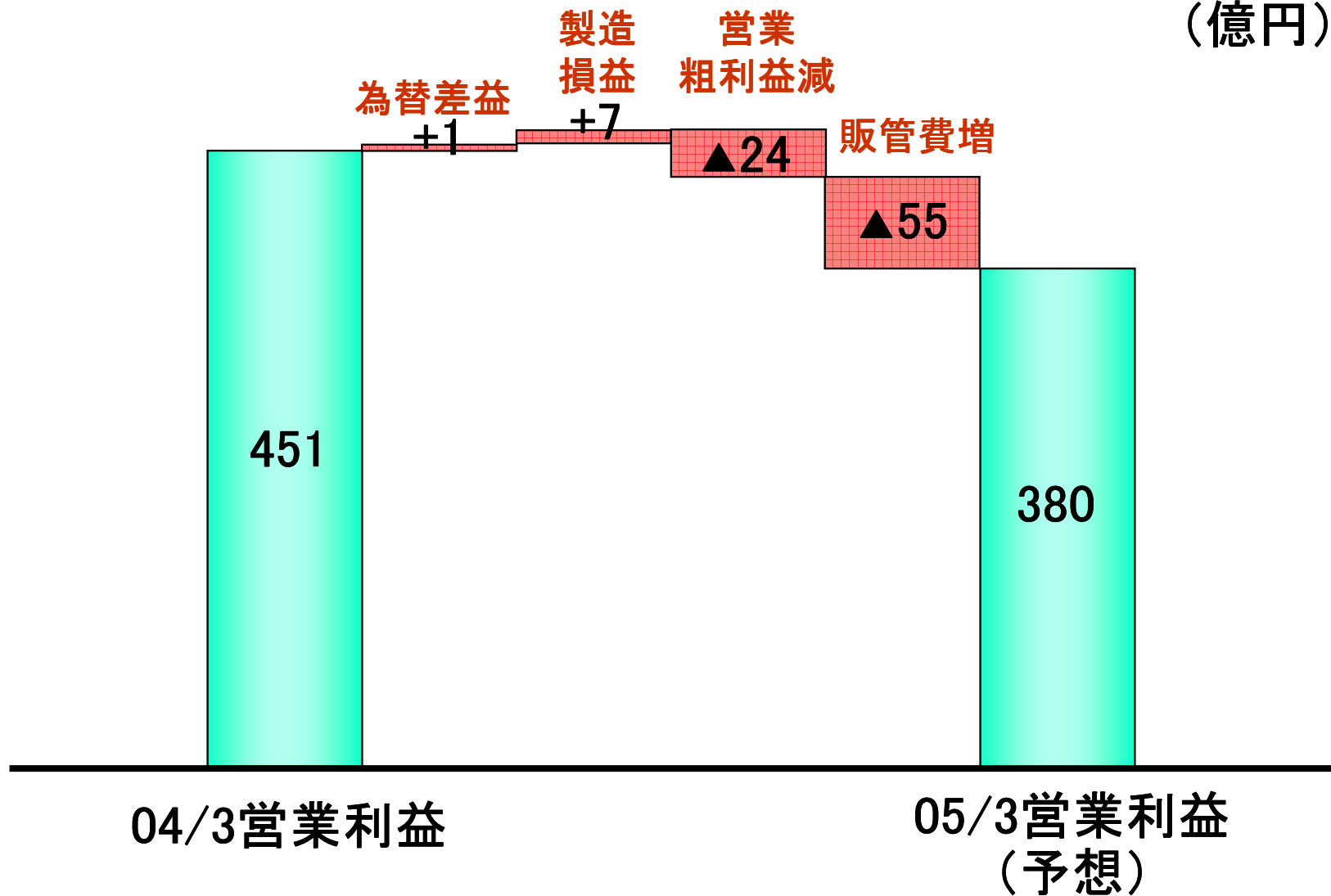
(億円)



2005/3期 通期營業利益予想増減分析



(億円)



2005/3期 通期事業別営業利益予想



(億円)

| | 04/3 実績 | 05/3 予想 | +/ \blacktriangle | 為替 影響 | 実質 +/ \blacktriangle | 前回予想 (8/2発表) |
|-----------|---------------------|---------------------|----------------------|--------------------|---------------------------|---------------------|
| 楽 器 | 105 | 155 | + 50 | \blacktriangle 6 | + 56 | 155 |
| A V ・ I T | 44 | 45 | +1 | +7 | \blacktriangle 6 | 45 |
| リ ビ ン グ | 15 | \blacktriangle 5 | \blacktriangle 20 | | \blacktriangle 20 | 1 |
| 電子機器・金属 | 300 | 200 | \blacktriangle 100 | | \blacktriangle 100 | 200 |
| レクリエーション | \blacktriangle 11 | \blacktriangle 15 | \blacktriangle 4 | | \blacktriangle 4 | \blacktriangle 12 |
| そ の 他 | \blacktriangle 2 | 0 | +2 | | +2 | 1 |
| 計 | 451 | 380 | \blacktriangle 71 | +1 | \blacktriangle 72 | 390 |

* 前回 (8/2) 予想との比較では \blacktriangle 10億円。
 うち為替影響による増益は +7億円 (楽器 5億円、AV・IT 2億円)
 従って、実質ベースでは前回予想に対し 17億円の減益

2005/3期 通期営業外損益、特別損益



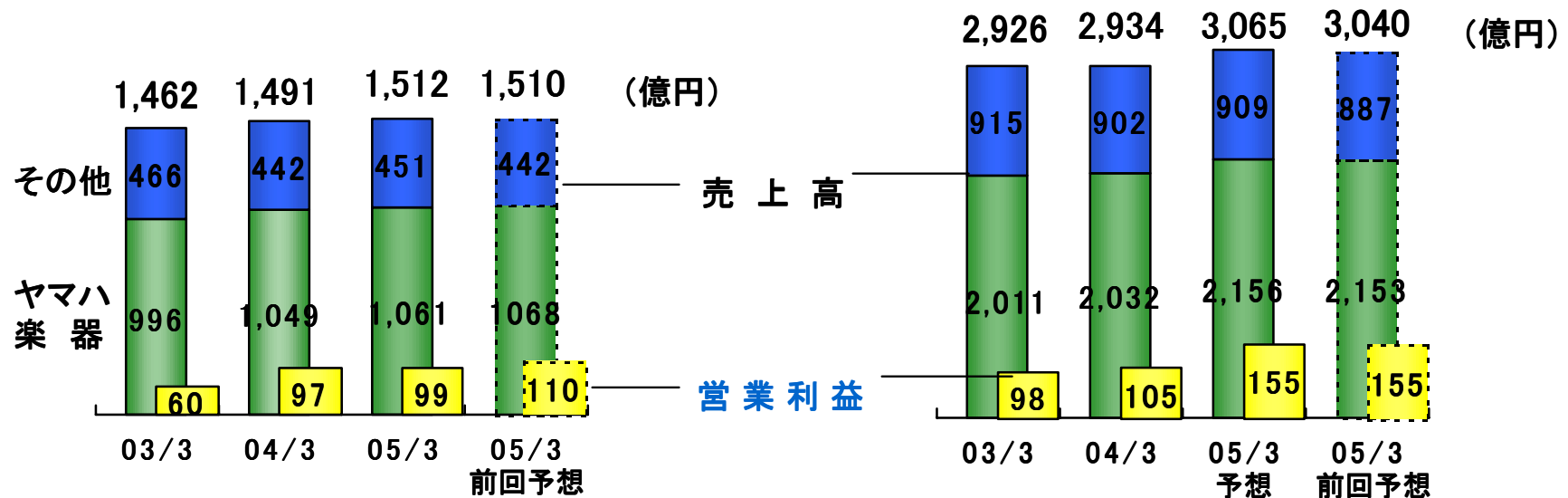
| | 04/3実績 | 05/3今回予想 | 05/3前回予想 |
|--------------|--|---|---|
| (億円) | | | |
| 営業外損益 | | | |
| 持分法利益 | 104 | 93 | 70 |
| 金融収支 | ▲10 | ▲5 | ▲4 |
| その他 | ▲35 | ▲43 | ▲46 |
| 計 | + 59 | + 45 | +20 |
| 特別損益 | | | |
| 固定資産処分損益 | ▲23 | ▲8 | ▲7 |
| その他 | ▲12 | ▲77 | ▲78 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・総報酬制移行過年度社会保険料▲9 ・EC課徴金 ▲3 | <ul style="list-style-type: none"> ・代行返上益 197 ・資産処分益等52 ・減損損失 ▲325 | <ul style="list-style-type: none"> ・代行返上益 195 ・資産処分益等52 ・減損損失 ▲325 |
| 計 | ▲35 | ▲85 | ▲85 |
| 法人税他 | | | |
| 法人税等 | 35 | 141 | 124 |
| 少数株主持分 | 5 | 4 | 6 |
| 計 | 40 | 145 | 130 |

上期の状況

- ・前年同期比増収増益
- ・実質売上高は前年同期比3.5%の増収
 “STAGEA”効果でエレクトーンは前年同期比大幅増収(37億円→89億円)
 ピアノは、国内、米国で低迷
 地域別には、韓国・中東伸長、国内増収
- ・上期営業利益は、予想を上回る在庫未実現利益控除により、前回予想に対し減益
- ・上期末在庫は前年同期比、前回予想比とも増加

下期の重点施策

- ・通期売上高は、上方修正。利益は据置
- ・新商品の確実な市場導入
 ディスクラビアMarkIV、NewCVPシリーズ、PM5D
- ・米国市場での挽回と欧州市場での安定成長継続
- ・国内は音楽教室布石継続とエレクトーン2年目以降対策推進
- ・中国市場戦略の推進(基盤構築)
- ・製造構造改革のスピードアップ



期待商品の動向(1)



●エレクトーン「STAGEA」

04/3月の発売以来9月末までで1万7千台を出荷。05/3月通期の売上は2万5千台の見込み

次年度は、レッスンやイベントでのSTAGEA活用の広がり背景に、スタンダードモデル主体にレッスン生需要を掘起し、併せてCM・イベントプロモーション等により、若者層を中心とした新規顧客開拓を継続推進する

カスタムモデル 108万円 スタンダードモデル 69万円



●ピアノディスクラビアMarkIV

予定通り9月末に北米で発売。楽器店からの引き合いは1,500台に上り、出足は順調で、初年度計画の1,000台は大きくクリアーの見込み

80キがHDやリモコンの液晶タッチパネル化等、新しく搭載した使い勝手が好評を博している

北米でのメーカー希望小売価格は、C1タイプが約4万2千ドル、C3タイプが約5万7千ドル



期待商品の動向(2)



●クラビノーバNewCVPシリーズ

5月欧州・オーストラリア、8月北米、9月に国内で発売。
電子ピアノとしては初めてインターネットダイレクト接続を実現

中間期で当初予定台数に対し10%オーバーの13,500台と
順調な滑り出し、通期でも10%オーバーの26,500台を見込む

マーケットからは今回のデザイン・機能性が高評価

先行発売した海外での売れ筋価格は欧州3,700ユーロ、
北米8,000ドル



●デジタルミキサーPM5D

05/3月期通期で500台以上の売上の見通し

コンサート・ツアー・カンパニーがユーザーの中心で、
今後はホール音響への納入が期待される

来年の愛知万博でもPM1Dと併せ使用が決定、globe
コンサートツアーでも3台が使用される

実勢価格：PM5D/700万円、PM5D-RH/1,000万円程度



成人音楽教室の拡大と子供音楽教室の反転上昇

●都市型成人専用教室“コア100”の布石推進



中期目標100会場に対して、05/3月末で65会場の見込み

●郊外型新概念教室“ユニスタイル”の布石推進

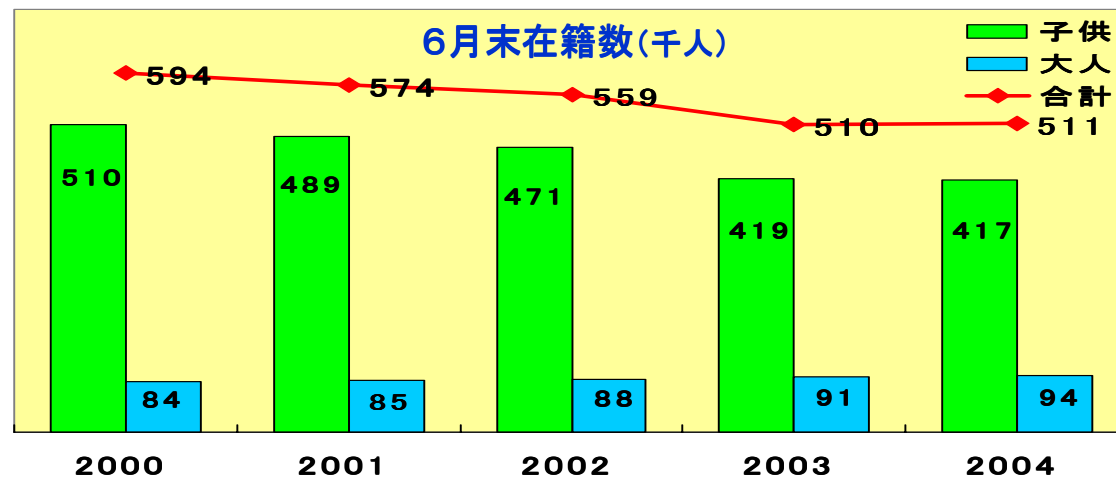


中期目標200会場に対して、05/3月末で35会場の見込み。既開設会場では快適性が支持され生徒数が計画を上回る

●在籍生徒数の推移

「成人生徒数の拡大と子供生徒数の下げ止まり」

* 2004年春の生徒募集は7年振りに前年を上回る(105%)。秋の募集も順調



中国市場戦略の推進



YMEC(中国統括会社)

2003/4営業開始

◆ 販売拠点

● 生産拠点



●中国市場向け商品の開発・投入

- ・蕭山工場製管楽器(フルート、アルトサクソ、トランペット)の販売を開始(04/6~)
- ・杭州工場製アップライトピアノ生産開始(04/10~)

●ヤマハブランドの浸透

高級ブランドとしてのポジション確立に向け、「プロフェッショナル」「ハイテク」「信頼性」をキーワードに、専門家対策・アフターサービス充実・他社差別化を推進

- ・上海に総合サービスセンター開設(04/11~)
- ・ヤマハ音楽教室展開に向けての準備継続

●流通チャネルの拡大・整備

ピアノ専門店、ポータブルキーボードの量販店チャネルの開拓を推進

●上期の進捗状況(進んだこと)

- ・豊岡工場セル化(エレクトーン、PA)によるコストダウンと増産対応
- ・管楽器TPM活動の協力企業への拡大

●下期のテーマ

新工場

- ・杭州ピアノ、ギター工場生産立ち上げと軌道乗せ

生産移管

- ・木材部品加工工程(山梨工芸)の掛川ピアノ工場工程内への取り込み

増産・原価低減

- ・ピアノ(本社工場、掛川工場)でのTPS活動展開
- ・事業部門統合(管教育+弦打楽器)による効率化(業務効率、重複機能一元化)

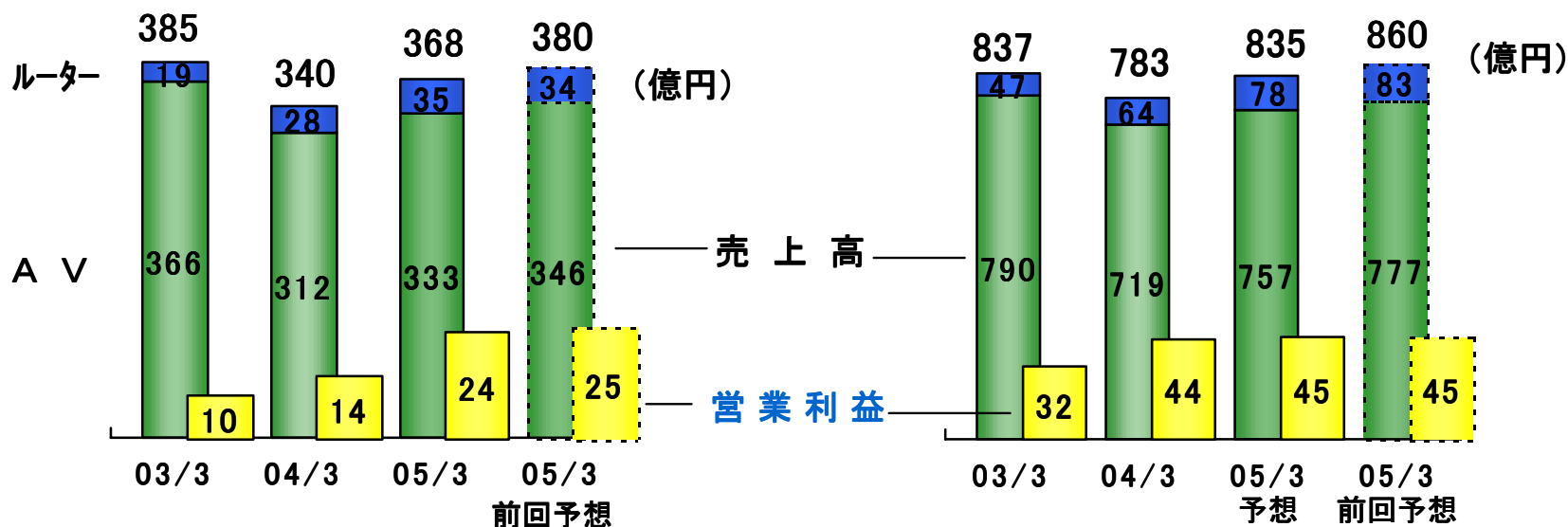
今後、更に、製造工程見直し、最適生産基地への生産移管、拠点統合を加速化

上期の状況

- ・前年同期比増収増益
- ・AVの実質売上高は、前年同期比10.6%増収
- ・北米は、中高級レシーバー・普及価格帯HTiBを中心に前年同期比2桁成長
- ・ホームシアター、業務用ルーター、通信カラオケとも各々引き続き順調
- ・営業利益は、増収、コストダウン効果、為替差益等により、前年同期に対し大幅な増益達成
- ・上期末在庫は、前年同期比、前回予想比とも増加

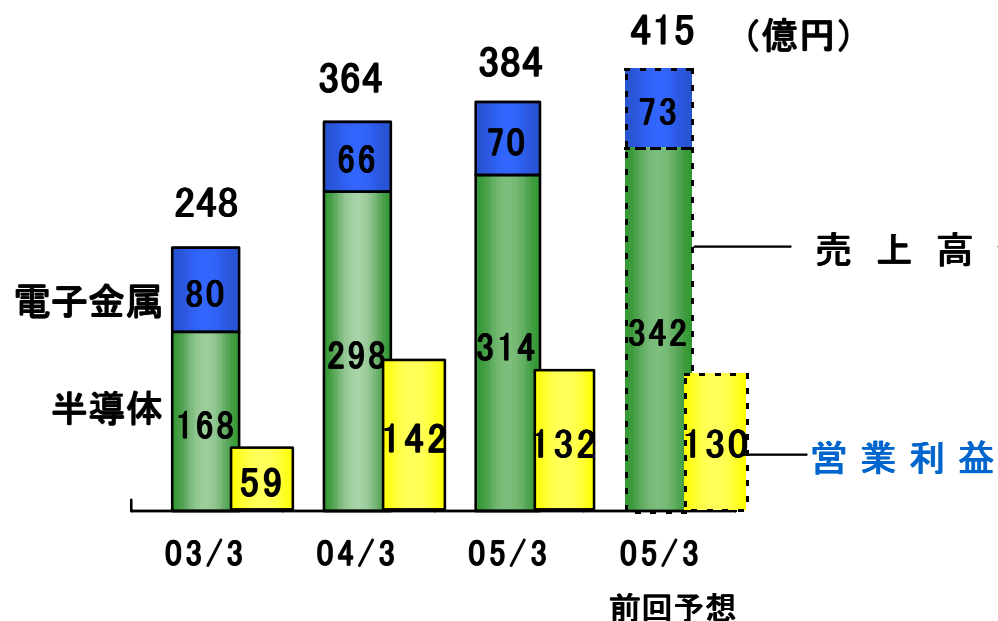
下期の重点施策

- ・通期売上高は、対前期増収となるものの、前回予想を25億円下方修正
- ・ホームシアター事業の成長継続
 - 市場変化に対応した新商品24モデルの投入
 - アライアンスによる新規ビジネスの開始
 - 大画面薄型TVにマッチした新商品の投入
- ・中国及びアジア市場における成長戦略の推進
- ・ルーター事業でのソリューションビジネス強化



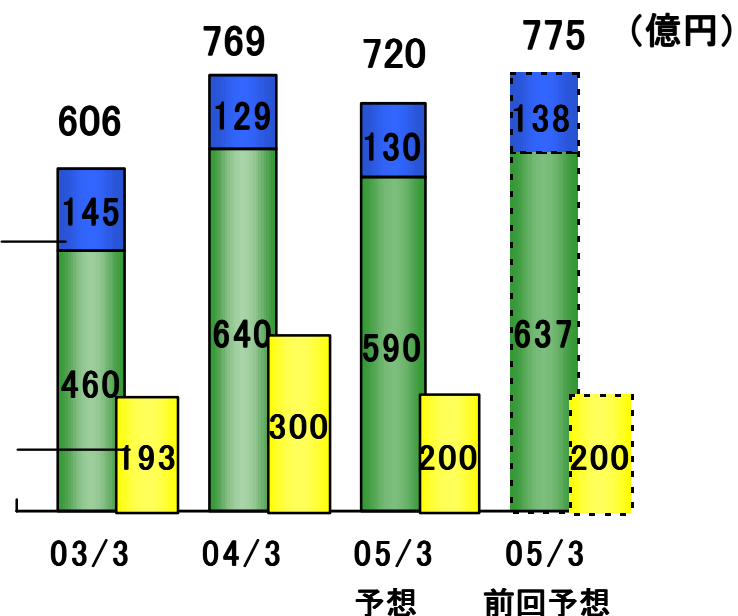
上期の状況

- ・前年同期比では増収減益
- ・6月後半からの中国・韓国携帯電話メーカーの在庫調整により、携帯電話用音源LSIは前回予想に対し減収
- ・また、好調に推移してきた電子金属も、銅系リードフレーム材が8～9月と調整局面に入り、前回予想に対し減収



下期の重点施策

- ・市場状況を見据え、前回通期予想売上を下方修正
- ・SMAF普及の継続推進による携帯電話用音源LSIの拡売。中国・韓国メーカーの回復期待とBRICs市場での増売
- ・着うたニーズに対応した携帯電話用音源LSIの開発
- ・携帯電話用音源LSI以外の半導体ビジネス拡大
- ・電子金属は、オーリン社との協業による新商品の立ち上げ、及びTPM推進による収益性向上に注力



リビング事業

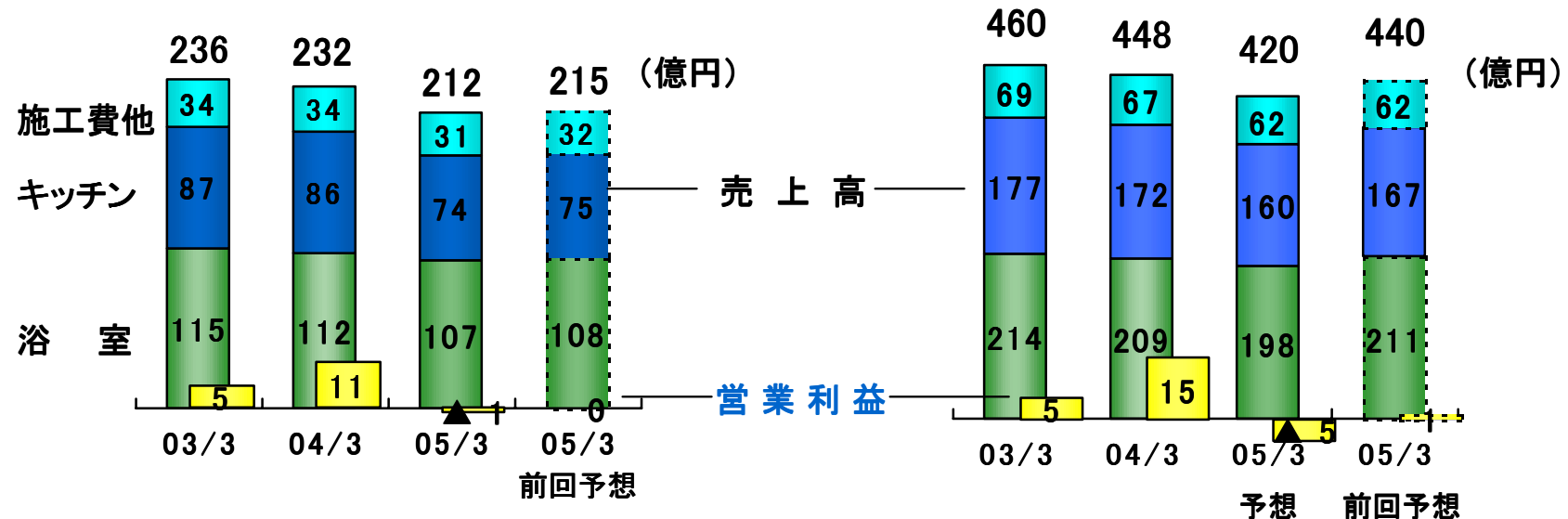


上期の状況

- ・中間期売上高は、卸ルート苦戦し、前年同期比8.6%減収。損益も赤字転落
- ・主力の浴室は2月発売の新商品が期待外れの売上となった。但し8月以降シェアは前年並みに回復傾向
- ・新商品投入が下半期となるキッチンにはシェアがダウンし低迷。6月に現行商品での対策を打ったが成果につながらず

下期の重点施策

- ・通期売上計画を前回予想から20億円再度下方修正し420億円に設定し、損失額も拡大
- ・ショールーム、広告等での告知強化し、システムキッチン新商品の増売
- ・AWE社との提携効果拡大と商品力強化による浴室のシェア回復
- ・施工、物流費用コストダウン

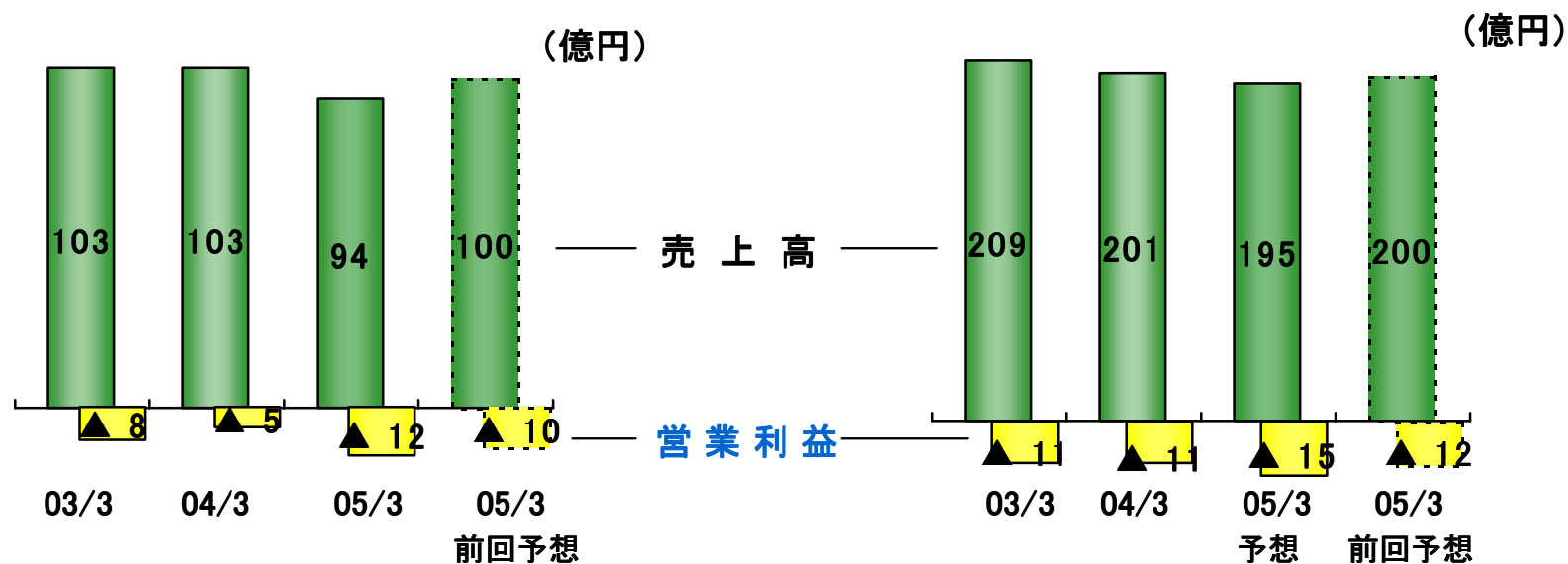


上期の状況

- ・北海道の全般的低迷で「キロロ」が苦戦。他の施設も度重なる台風の影響を受け、売上高は前年同期比減収。前回予想に対しても下回った
- ・減収に伴い、上期の赤字幅拡大
- ・「寸座ビラ」、「キロロ」ゴルフ場閉鎖による売上高の前年同期比影響額は約3億円

下期の重点施策

- ・前回通期予想に対し、減収減益を見込む
- ・集客数確保施策の展開と、一層の営業効率向上による、収益改善努力を継続
- ・スキーのオンシーズンとなる「キロロ」の集客目標達成と、中部国際空港開港・愛知万博開催に向けてた伊勢志摩(鳥羽・ネム)対策



その他事業

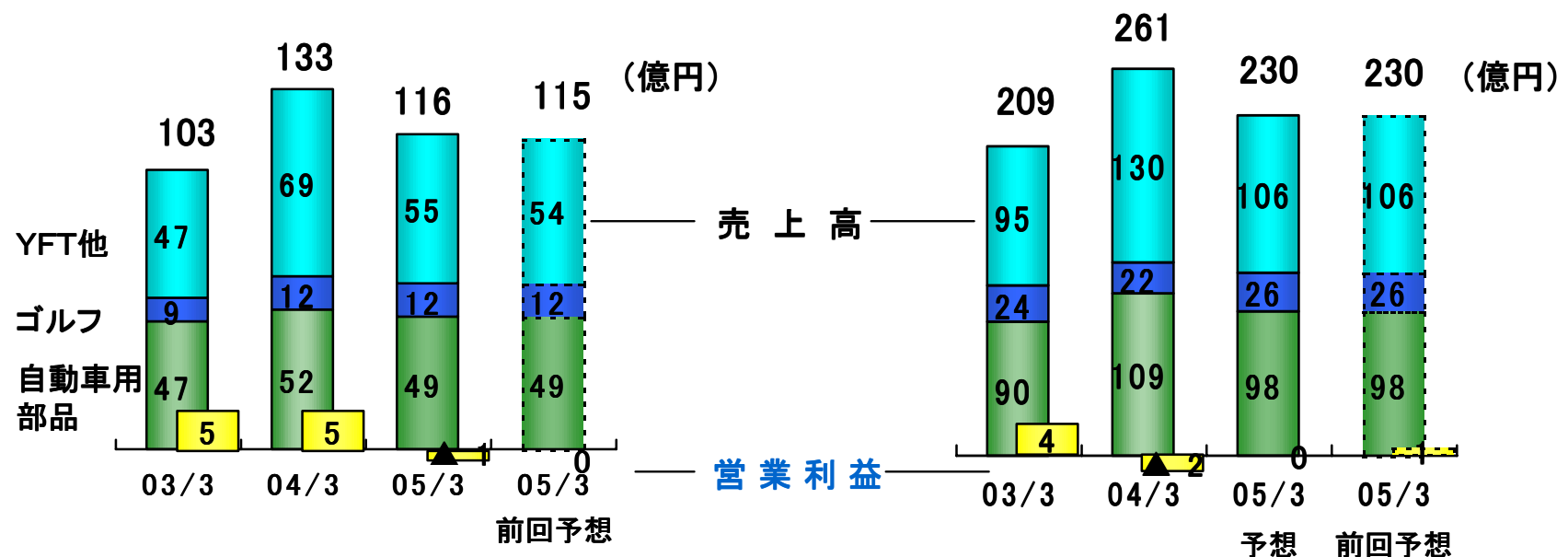


上期の状況

- ・セグメント全体では、前年同期比減収減益
- ・FA好調。携帯電話用Mg部品は需要減で前年同期比大幅な減収。金型部品事業全体では赤字転落
- ・自動車用内装部品は前年同期比減収。ゴルフは前年同期並み売上高を維持

下期の重点施策

- ・携帯電話用Mg部品の損益分岐点引き下げ
- ・自動車用内装部品は製法改革による製造原価低減
- ・ゴルフは新商品のスムーズな軌道乗せ

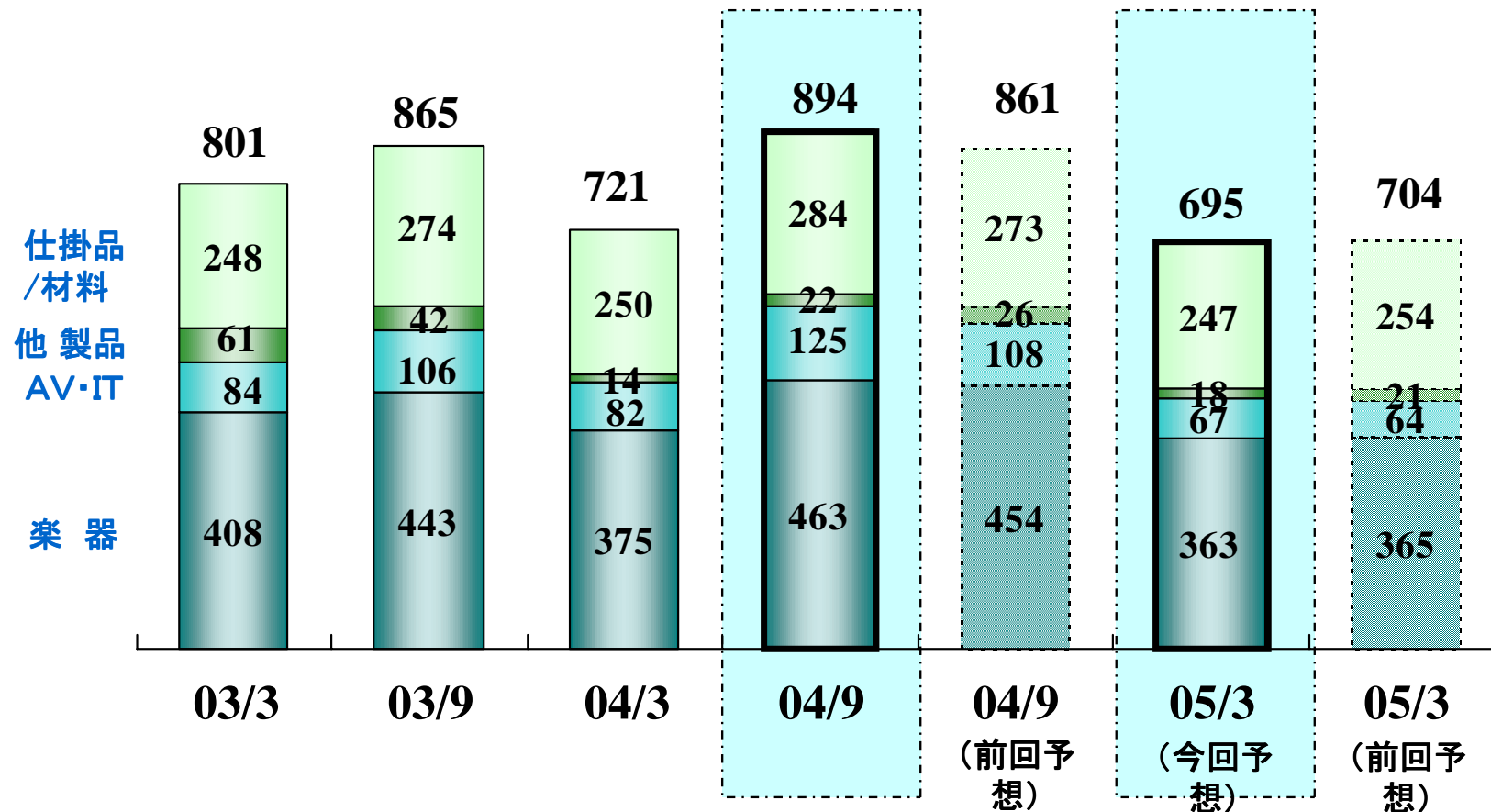


棚卸資産



- ▶ 中間期末在庫は、前年同期、前回予想に対し増加
- ▶ 期末在庫は前回予想以下に圧縮する計画

(億円)

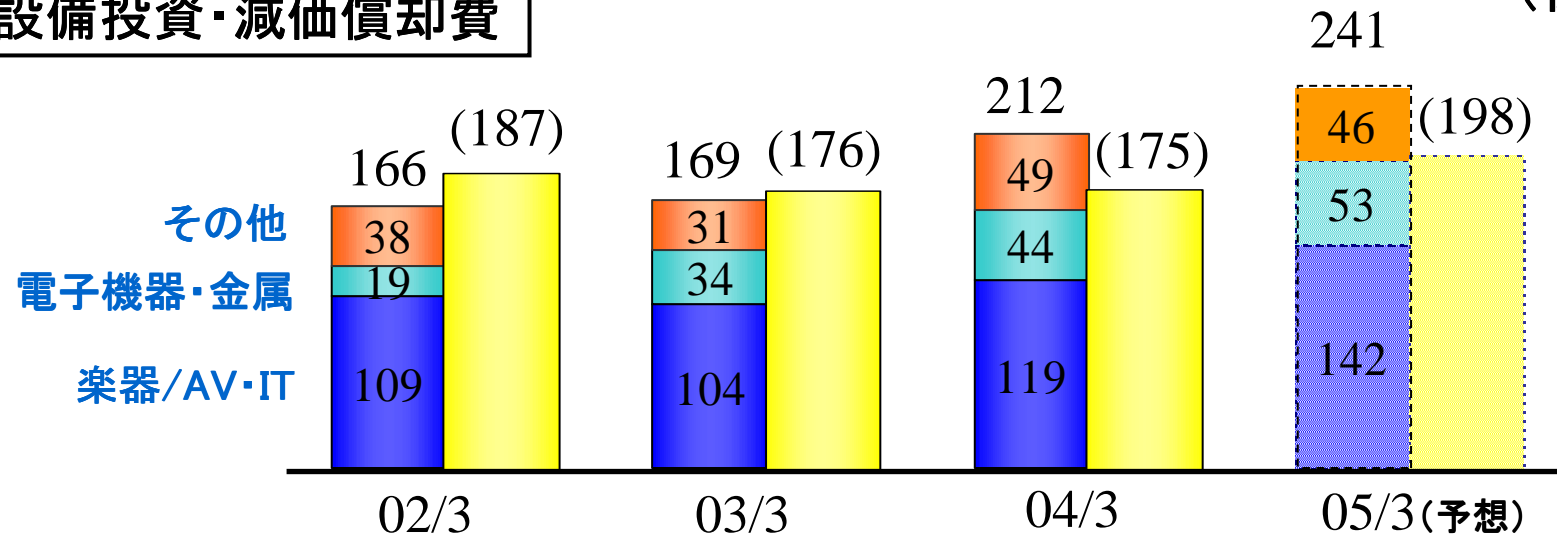


設備投資・減価償却費/研究開発費

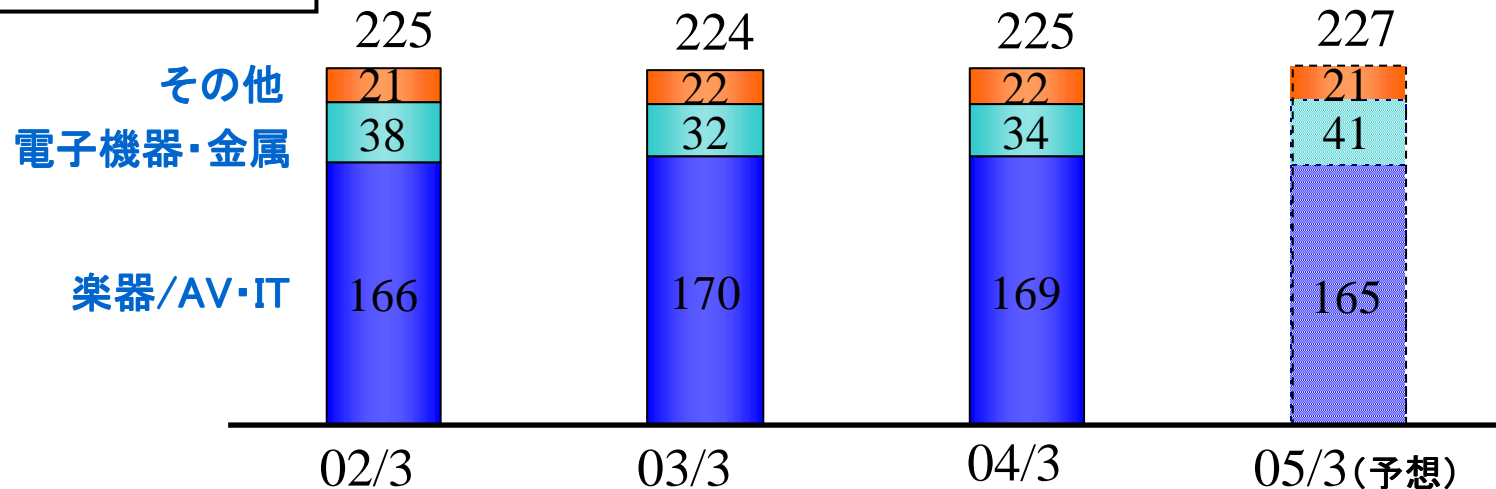


設備投資・減価償却費

(億円)



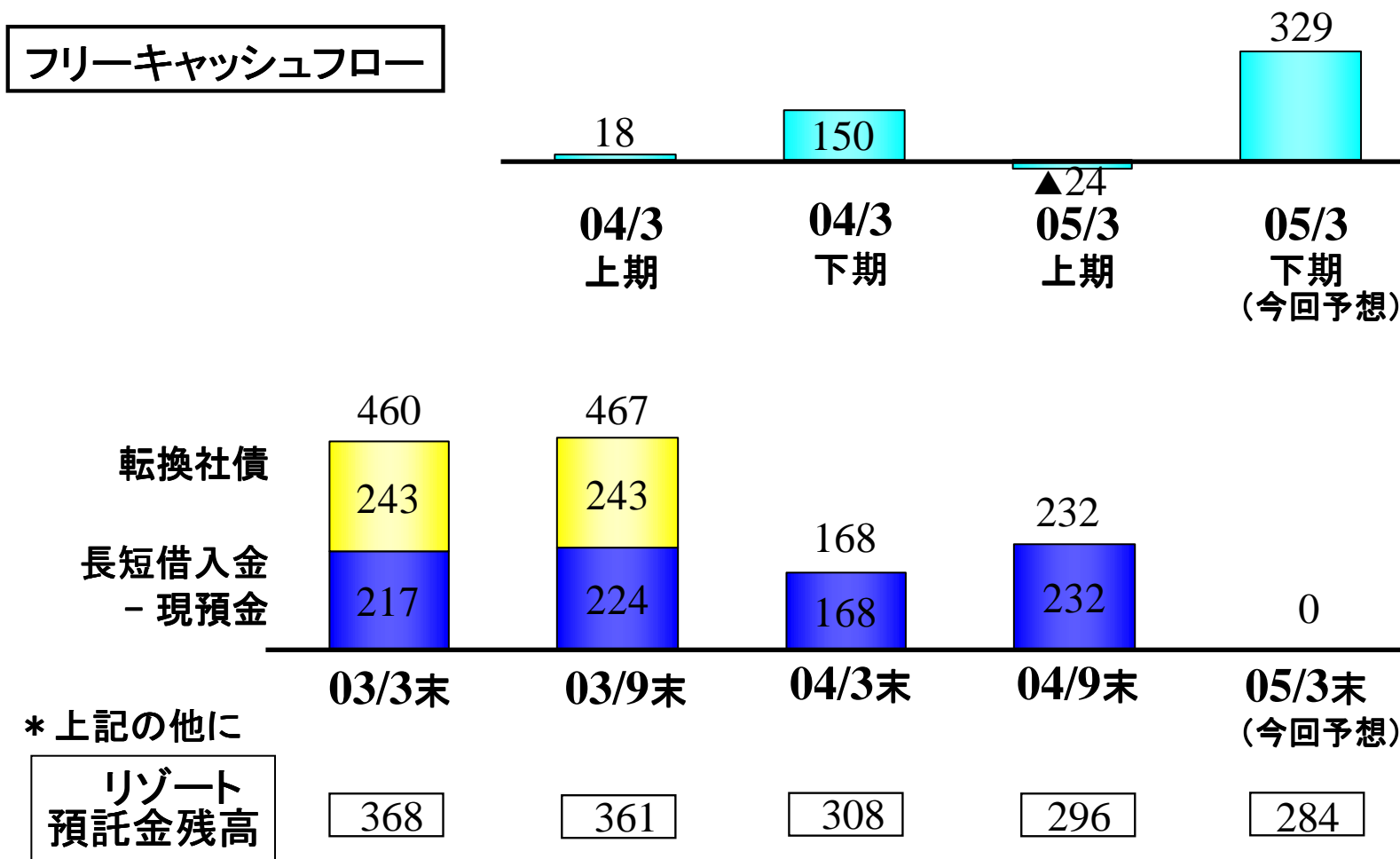
研究開発費



実質有利子負債



➤ 下期でYSD50で目標として掲げた実質有利子負債ゼロを前倒して達成見込み (億円)



予想貸借対照表



* 05/3末で総資本を5千億円以下に圧縮

(億円)

| | 03/3末 | 03/9末 | 04/3末 | 04/9末 | 05/3末 |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 現預金 | 445 | 442 | 321 | 425 | 452 |
| 売上債権 | 791 | 886 | 787 | 858 | 770 |
| 棚卸資産 | 801 | 865 | 721 | 894 | 695 |
| 他流動資産 | 174 | 175 | 188 | 248 | 252 |
| 固定資産 | 2,916 | 2,996 | 3,070 | 2,822 | 2,804 |
| 資産計 | 5,127 | 5,364 | 5,087 | 5,247 | 4,973 |
| 仕入債務 | 395 | 425 | 399 | 471 | 469 |
| 借入金 | 661 | 666 | 489 | 657 | 380 |
| 転換社債 | 243 | 243 | 0 | 0 | 0 |
| 他負債 | 1,683 | 1,604 | 1,602 | 1,583 | 1,357 |
| 資本計 | 2,145 | 2,426 | 2,597 | 2,536 | 2,767 |
| 負債・資本計 | 5,127 | 5,364 | 5,087 | 5,247 | 4,973 |

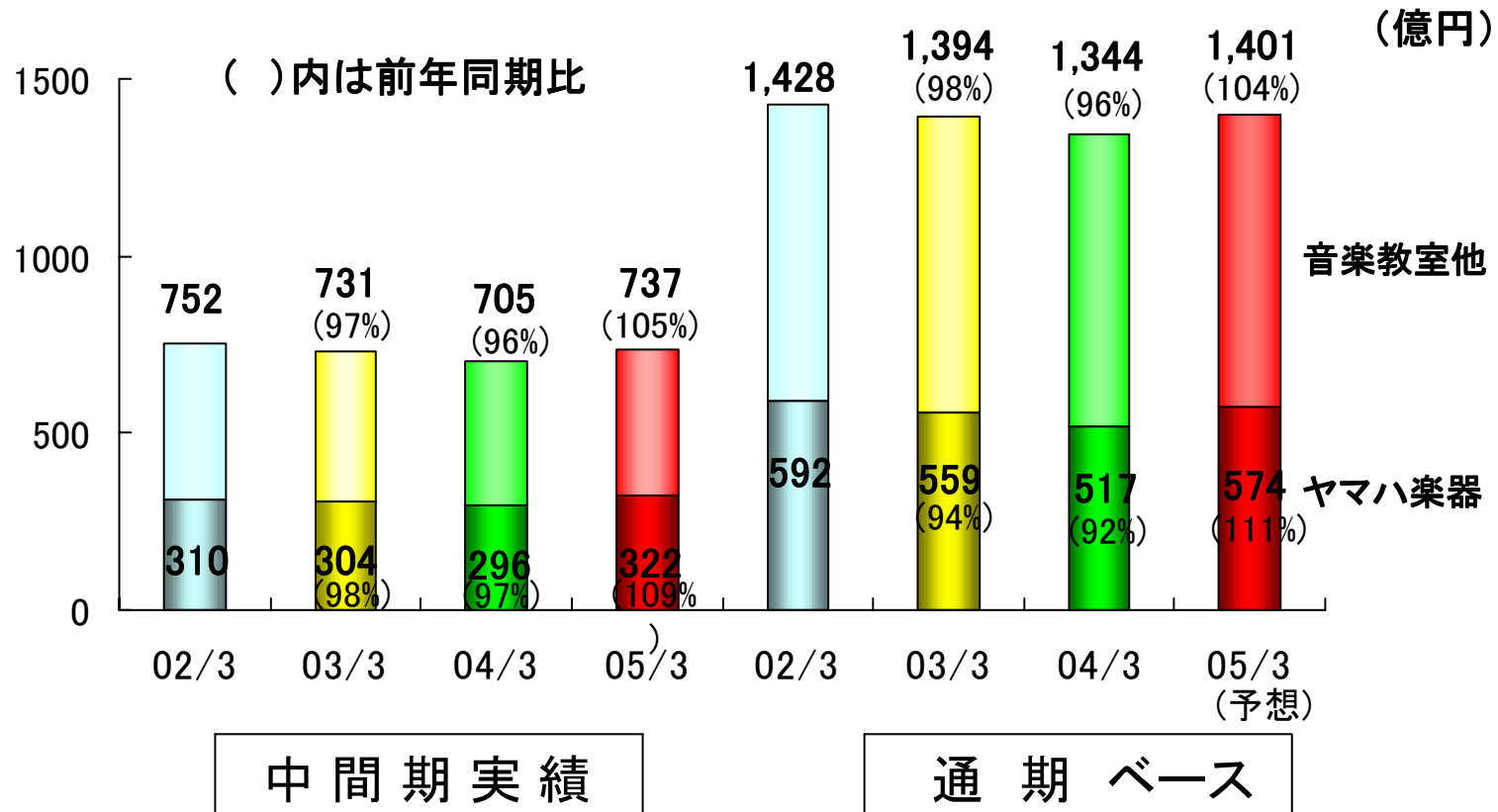
* 他負債に少数株主持分を含む

付属資料

日本市場のヤマハ楽器販売状況



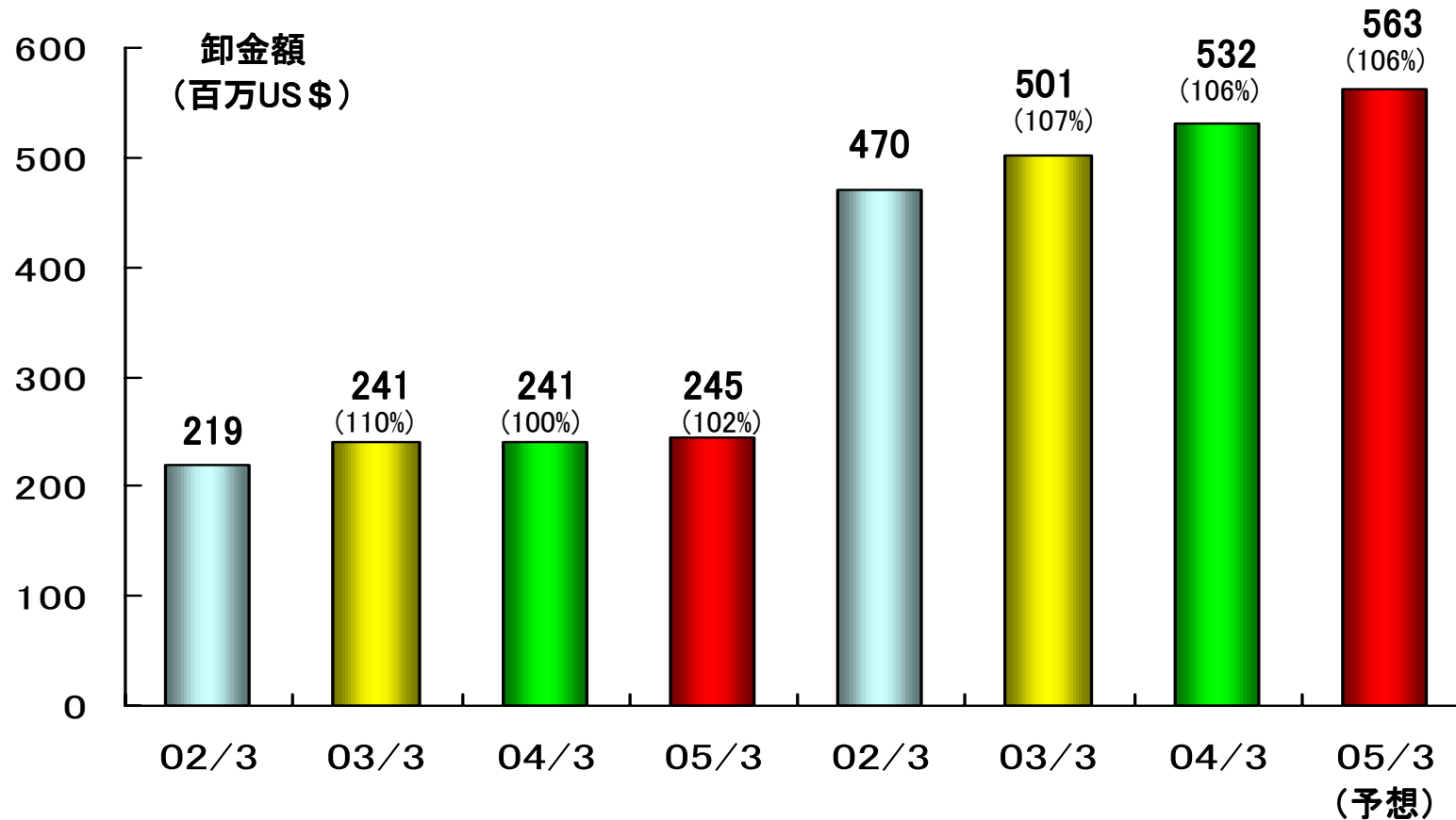
ピアノ市場は総需要の減少に伴い厳しいものの、エレクtoon「STAGEA」が出荷好調を維持(発売以来出荷合計17,213台)し、中間期の売上高は、久し振りに前年中間期を上回った。



アメリカ市場のヤマハ楽器販売状況



ピアノ全体は依然スローながらGP中心に復調傾向、電子楽器はポータブルキーボード、電子ピアノ中心に、年末需要期向けに出荷が順調に推移。



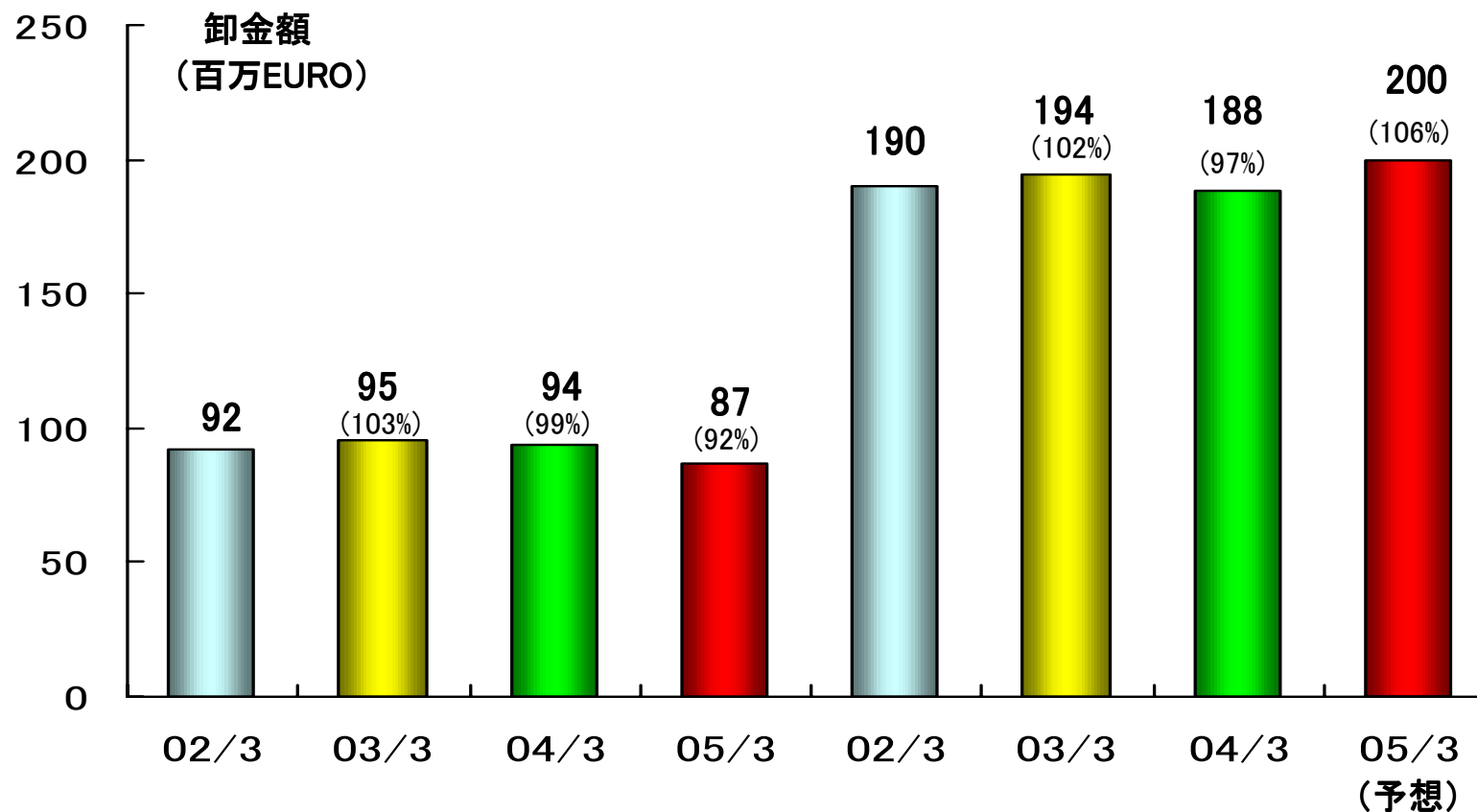
中間期実績

通期ベース

ドイツ市場のヤマハ楽器売上推移



経済状況はやや回復基調だが、欧州統合倉庫からの出荷問題があり若干のショート。ポータブルキーボードの中低価格帯の新商品が好評、管楽器もほぼ計画通り。



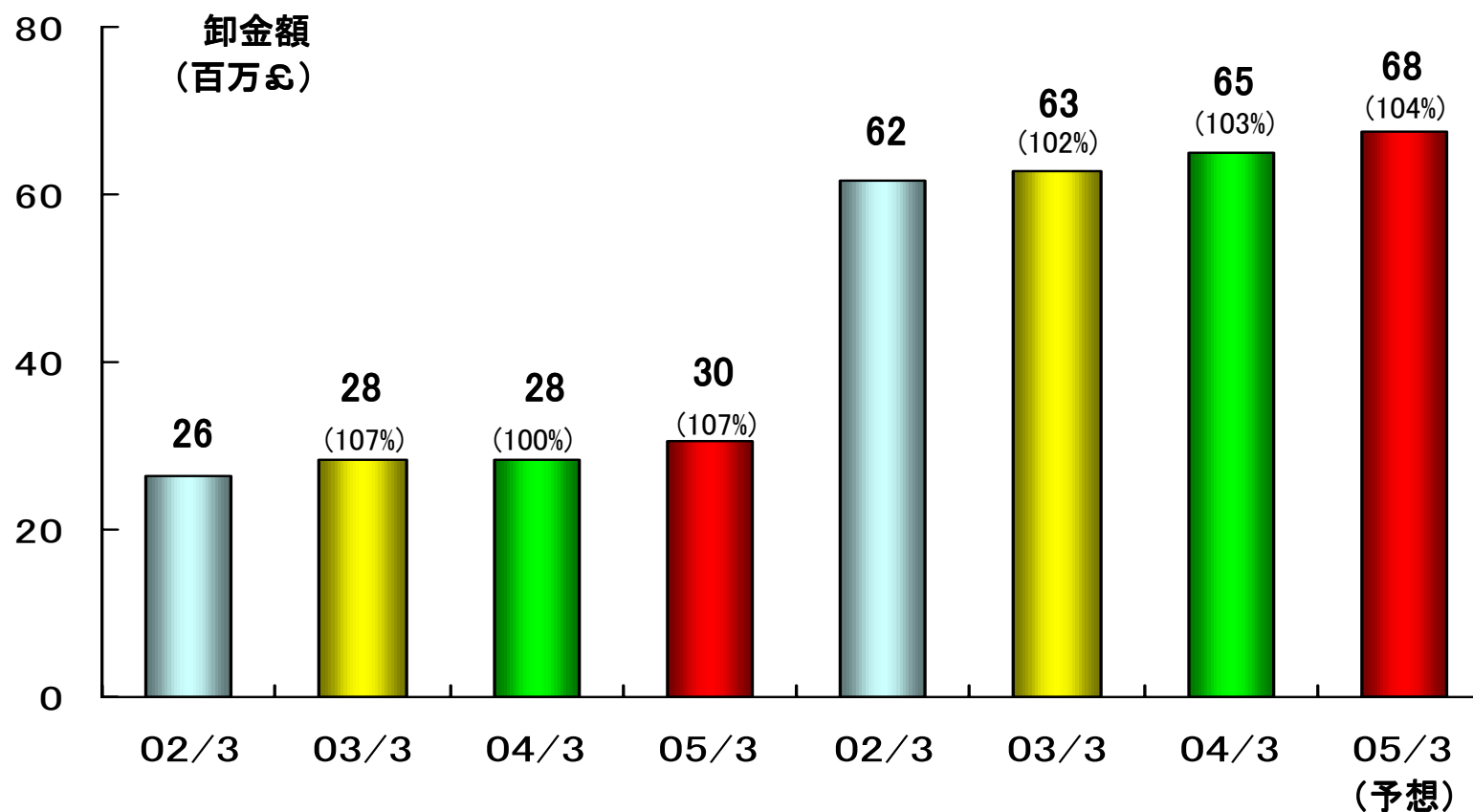
中間期実績

通期ベース

イギリス市場のヤマハ楽器売上推移



ピアノは特別価格と在庫処分施策が功を奏し好調、管楽器も学校向け販売が好調。
電子楽器はポータブルキーボードが厳しく、今後の年末販売で挽回する予定。



中間期実績

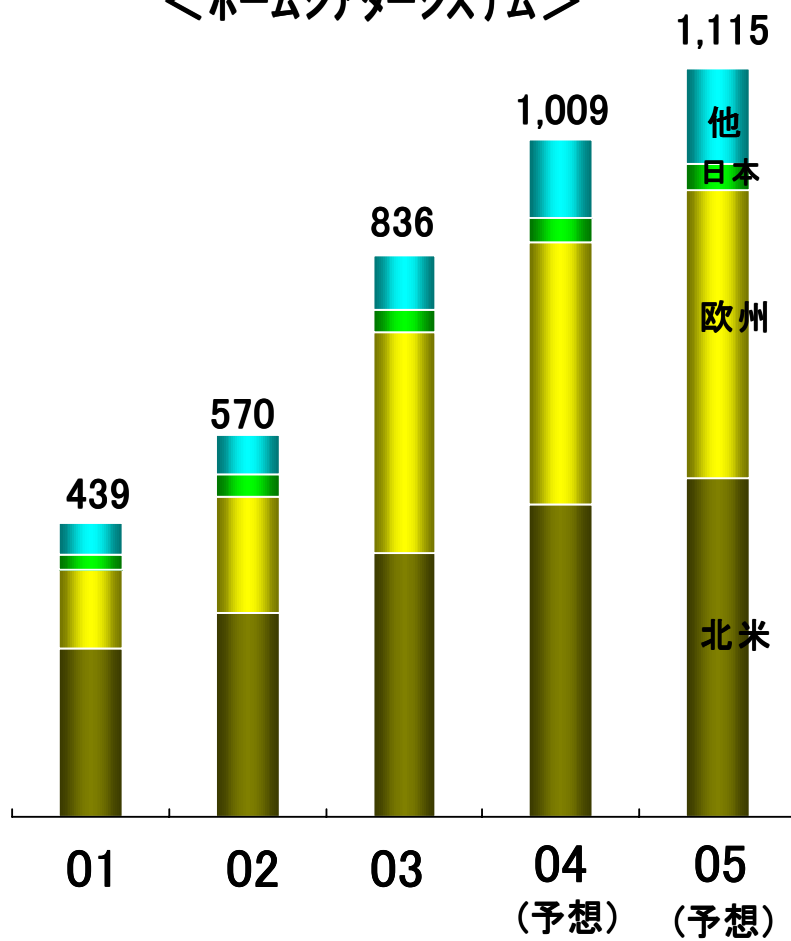
通期ベース

ホームシアター市場規模

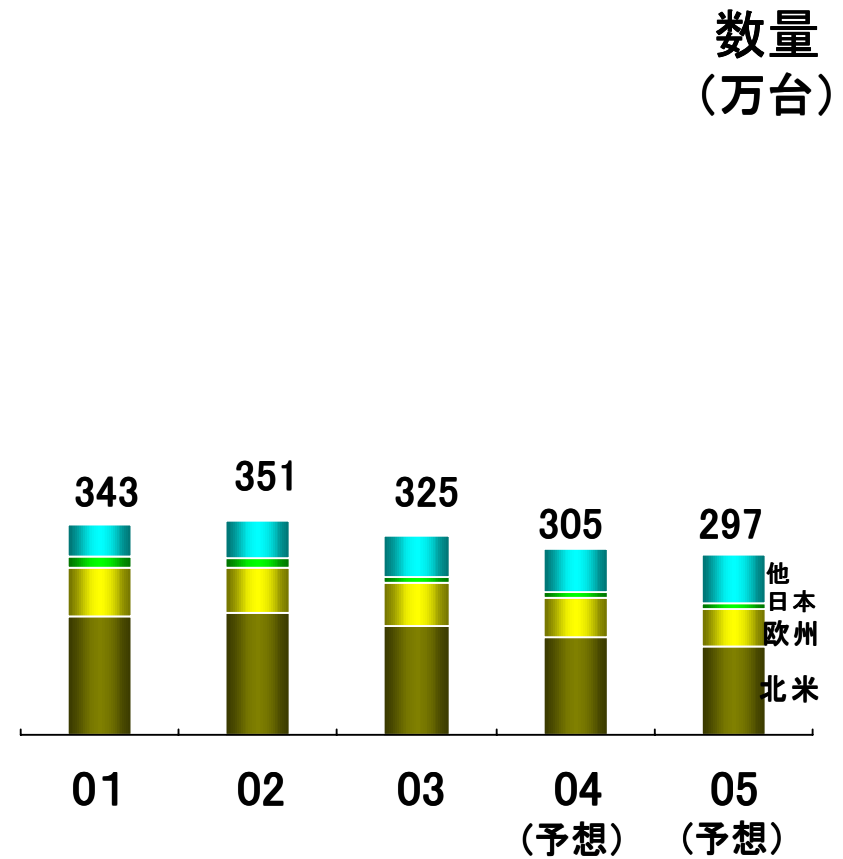
(ホームシアターシステム+アンプ・レシーバー)



<ホームシアターシステム>



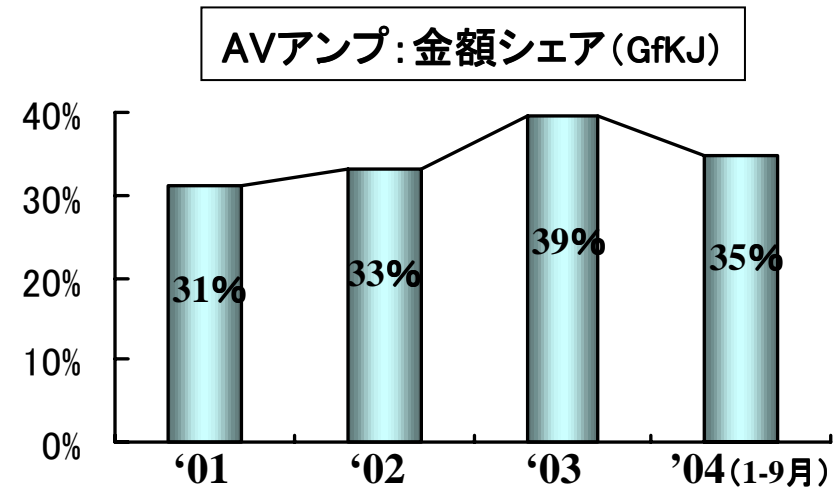
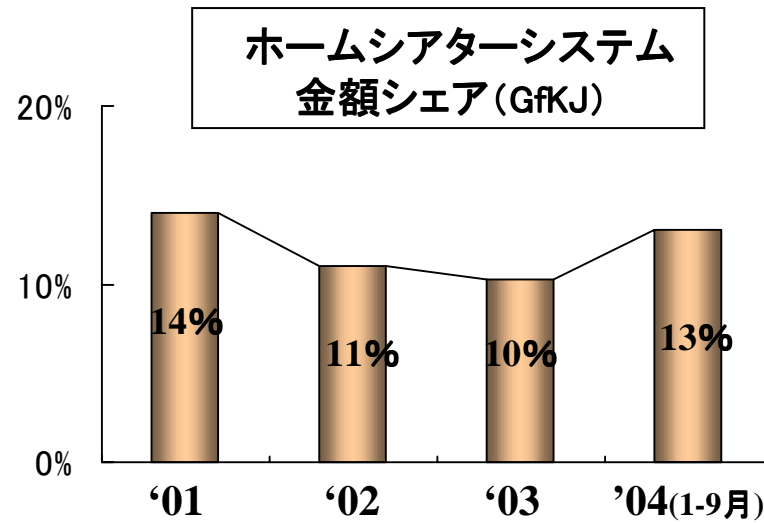
<AVアンプ・レシーバー>



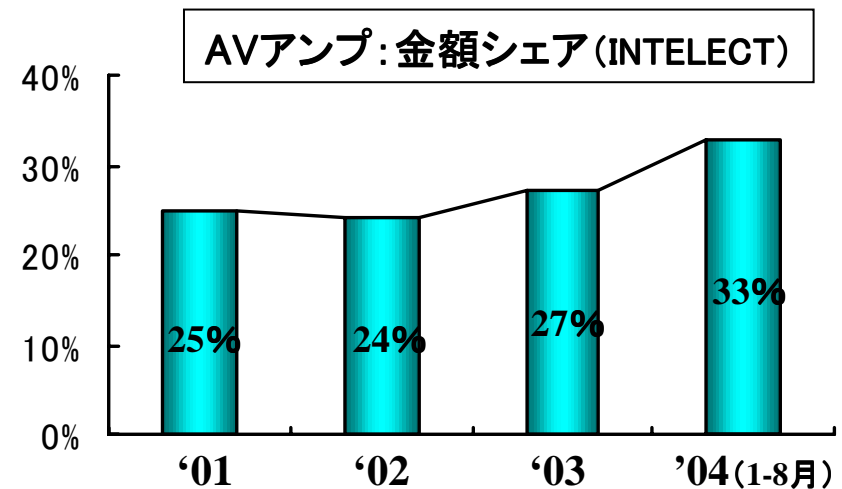
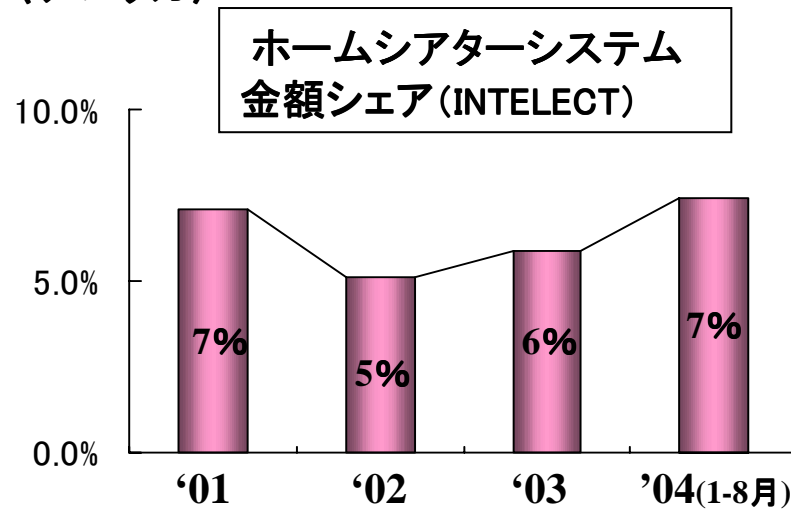
AV マーケットシェア



〈日本〉



〈アメリカ〉



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。